

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

■ 第4章「東電の敗北」

3月15日午前2時ごろ、東京・霞

が関の合同庁舎の執務室で仮眠を取

っていた原子力安全委員会委員長の

班目春樹(62)は、交代で首相官邸に

詰めていた委員長代理の久木田豊

(63)からの電話で起された。

「かなりの大変なことになっている。

すぐに来てもらった方がいい」

東京電力福島第一原発1号機の爆

発で信用を失った班目だが、官邸へ

の助言は続いていた。14日午後も

2号機の対応をめぐって第十原発所

長の吉田昌郎(56)と電話で意見を交

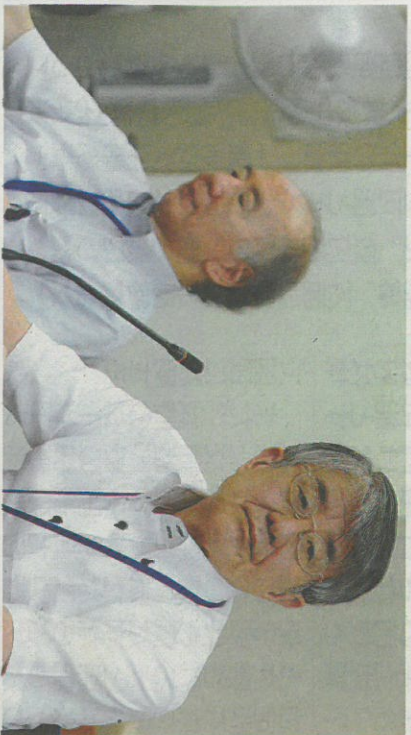
わしたばかりだった。

東京電力や原子力安全・保安院な

ど関係者の作業スぺースとなってい

13

東電、なすすべなく



記者会見に臨む原子力安全委員会委員長の班目春樹委員長(左)と久木田豊委員長代理(右)。2011年7月15日、東京・霞が関

どうにもなりません

久木田はこの少し前、東電の敗北「

の瞬間を目の当たりにしていた。

事故の翌朝、第一原発視察からの
官邸も階の首相応接室で経済産業
相の海江田万里(62)が東電の原子力

品質・安全部長川俣晋(54)に状況の

みがえった。

撤退すれば放置された原子炉や核

燃料プールの汚染が広がる懸け、

と努力しましたが、もつとにもな

らない状況です…」

川俣はそこまで言うとき涙を流し、

人とも聞き覚えのない言葉だっ

た。東電が進めていたドライウエル

メントは格納容器(ドライウエル)

から直接、蒸気を出す方法で、環境

への影響は甚大だ。だが、そうしな

ければ格納容器自体が破損し、さら

に深刻な被害が出る可能性が高い。

班目は保安院や官邸の危機管理担

当者らとともに首相応接室に呼び出

された。そこにいた海江田が、いき

なり言った。

「東電が第十原発から撤退した

と言っている。意見を聞かせてほしい

同通信 太田久史